

令和7年度 第1回 神奈川県立伊勢原高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和7年7月2日(水)15:00～16:30

2 場 所 本校応接室

3 参加者 (委員7名)

石田 誠 様(伊勢原高等学校PTA会長)
田中 昇 様(伊勢原高等学校同窓会長)
宮林 貴子 様(伊勢原市立山王中学校長)
成川 忠之 様(東海大学経営学部 教授)
平田 哲也 様(伊勢原北地区青少年健全育成協議会青少年指導員)
成田 和吉 様(田中自治会長)
澤田 裕 様(伊勢原高等学校校長)

(学校職員12名)

○ 管理職 北村副校長、小俣全日制教頭
○ GL 石井(学務)、美馬(キャリア支援)、川井(生徒支援)、
井上(学校管理)、肝付(生徒指導)、天野(研究渉外)、
中尾(定力支援)、相本(定生・保管理)
○ 記録者 廣澤(研究渉外)

4 概 要

第一部 全体会、学校運営協議会・学校評価部会【15:00～16:00】

1 校長挨拶

- ・新年度人事異動に伴う人員変更について
- ・同窓会からいただいた「七夕かざり」について
- ・体育祭、試験等行事無事に終了したことについて
- ・定時制は来年度から募集停止となることについて

2 委員及び職員 自己紹介

- (1)自己紹介
(2)委員長の選任:石田委員

3 令和6年度 学校評価(実施結果)について

【全日制】

- (1)教育課程・学習指導について(学務GL・研究渉外GL)
①「教育課程」が進路実態やニーズにあっているか検証。
→ 4年制大学進学といつても、「一般入試」「指定校推薦」「総合型」と生徒・
保護者のニーズがさまざまで、ニーズにあっているかを「アンケート」で確
認。

②「ICT利活用授業研究推進校」として指定を受け、効果的なICTの利用方法を組織的に模索。

→ 11/8(金)実施の「公開研究授業」において、ChatGPT、Figma、ロイロノートなどを活用した授業に挑戦。また、「授業見学週間」を実施し、教員同士が他の教員のICT利活用について見合い、自身の実践に取り入れた。

(2) 生徒指導・支援について(生徒支援GL・生徒指導GL)

①「学校行事」や「生徒会活動」を通じて、生徒の人権意識、自己肯定感、自主性、積極性を育んだ。

→ 体育祭、文化祭をはじめ生徒が自分の目標や役割を持ち、主体的に行事を企画・実行した。

②「かながわ子どもサポートドック」のアンケートを積極的に利活用し教育相談の充実をはかるとともに、SC・SSWによる教員向け研修会を実施した。

→ 各機関が連携して素早く生徒に対応し、トラブルの解消や生徒の支援を行った。

(3) 進路指導・支援について(キャリア支援GL)

①「大学進学」の増加に伴い、日々大きく変化する「大学入試情報」「受験科目の変更」を調査。また、就職希望者支援のための「企業研究」の機会を設けた。

②3年間を見通した「キャリア教育」のもと1学年では「大山ウォーク」、2学年では「沖縄修学旅行」を実施。また、3学年では「総合的探究の時間」の探究活動を「総合型選抜」等で利用した入試について意識した指導をした。

(4) 地域との協働について(学校管理GL・研究渉外GL)

①新たな地域貢献活動の形を模索。

→「地域清掃」だけでなく、PTAの方との「花植え」、「伊勢原市総合防災訓練」に生徒が参加した。

②生徒主体の「学校説明会」を実施。また、高校入試(共通選抜)の倍率で1.34倍(志願変更前)を達成。

→学校説明会の説明は「お金」「高校入試」以外の内容はすべて生徒が説明した。

(5) 学校管理・学校運営について(学校管理GL)

①「事故・不祥事防止」徹底の観点から、ICTを活用して「職員アンケート」を実施。

→2月には回答率100%を達成。

②「避難所」指定についての意識を持ち、防災活動を行った。

→「避難所運営会議」の内容を職員間で共有し、本校設置の伊勢原市防災倉庫視察等を通じ、防災設備・備品の位置等を確認した。

【定時制】（以下、定時制GLより説明。）

（1）教育課程・学習指導について

- ①「少人数」という特徴を生かしてきめ細かく指導・支援。
→「チームティーチング」や「個別指導」を通じ、生徒の困り感に早急に対応し、生徒に合わせた進度の授業を行うことができた。
- ②「ICTを利活用した授業」により生徒が意欲的に学習に向かうことができた。
→「生徒による授業評価」で7項目すべてで85%以上の高評価を得た。

（2）生徒指導・支援について

- ①文化祭をはじめ「学校行事」において、誰もが楽しく参加できる手立てを考えさせた。
→生徒が立案した「後夜祭」を実施した。（一定数参加できない生徒もいた）
- ②生徒の「自立」を目的とし、SC・SSWや外部機関と連携し、「基本的生活習慣」を身につけられるよう取り組んだ。
→1年生・編入生全員を対象にしたSC・SSWによる全員面談を実施した。また、伊勢原支援学校による巡回相談を実施したり、教室の机の配置を「1人2机」にするなど工夫した。

（3）進路指導・支援について

- ①担任、進路指導担当による面談で「対話」を重視し、生徒の「適性」と「進路先」を結び付けた指導を行った。
→消極的だった生徒も進路活動に取り組めるようになった。
- ②ハローワークによる「就職ガイダンス」、キャリアサポート業者による「ガイダンス」、かなテクでの「就業実習」の実施。
→1学年から自分の進路希望について考える機会を設けた。

（4）地域との協働について

- ①「地域貢献活動(清掃)」、「デイサービスでのボランティア」等を実施。
- ②(新入生募集は停止だが)定時制での日々の活動をHPにて広報活動している。
→中学生保護者等から相談の連絡がある。

（5）学校管理・学校運営について

- ①職員の「不祥事防止」についての取組みとして、毎月「不祥事防止研修」を実施。
→チェックリストを用いて意識向上や知識を確認した。
- ②「防災教育」の取組みとして、「DIG訓練」、「消防署と連携した防災訓練」の実施、県総合防災センターにおける「災害体験」へ参加。

→ 夜間の登下校時に災害が発生したことを想定し、発災時に自分でなんとかする「自主防災意識」を高められた。

4 伊勢原高等学校グランドデザインについて

(1) 全日制について

スクールミッション、学校教育目標、グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを確認した上で、視点ごとの「目標」、「主な方策」を確認。

(2) 定時制について

全日制同様に、視点ごとの「目標」、「主な方策」を確認。

5 令和7年度 学校評価(目標設定)について

【全日制】

(1) 教育課程・学習指導について(学務GL・研究渉外GL)

- ① 「教育課程」が生徒の実態・ニーズにあつてているか検証。
→ 「アンケート」で確認。
- ② 「ICT利活用授業研究推進校」として効果的なICTの利用方法を組織的に模索。
→ 「生徒による授業評価」のうち、「学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」の項目で4段階で平均「3.2」以上を目指す。

(2) 生徒指導・支援について(生徒支援GL・生徒指導GL)

- ① 「学校行事」や「生徒会活動」を通じて、生徒の自己肯定感、自主性、積極性を育む。
→ 生徒間の「話し合い」がされるようサポートする。(アンケートで確認)
- ② 「教育相談システム」の利活用を促進するとともに、「生徒向け研修会」を実施し、生徒が抱え込まず、自ら相談できるようにする。
→ 「面談」を通して生徒の悩みの早期発見につなげる。

(3) 進路指導・支援について(キャリア支援GL)

- ① 引き続き「受験科目の変更」等を調査。また、外部機関からの情報収集も行う。
- ② 「キャリア教育」についての計画を視覚的に明確にする。

(4) 地域との協働について(学校管理GL・研究渉外GL)

- ① 「地域貢献活動(清掃)」以外にも「地域との信頼」につながる活動をする。
- ② 「広報」として「HPの充実」を図り、学校外への発信を推進する。
→ 高校入試(共通選抜)の倍率で「1.1倍(志願変更前)」を超える。

(5)学校管理・学校運営について(学校管理GL)

- ①「事故・不祥事防止」徹底の観点から、ICTを活用して「職員アンケート」を実施。
→「回答率」だけでなく、「正答率」も高める。
- ②「防災」活動において、ICTを利活用する。
→生徒が「VR」を用いて「DIG研修」を行う。

【定時制】(以下、定時制GLより説明。)

(1)教育課程・学習指導について

- ①「少人数」という特徴を生かし、「チームティーチング」、「個別指導」を引き続き行う。
- ②「ICTを利活用した授業」について「指導例」を共有し、多くの授業で効果的に活用する。

(2)生徒指導・支援について

- ①「学校行事」において、人権意識を育むとともに、誰もが行事に参加できるような方法を生徒に考えさせる。
- ②生徒が「自立」に加えて「自律」する力を身につけるため、「かながわ子どもサポートドック」、「こころサポート」を活用し、保護者と連携して生徒が「基本的生活習慣」を身につけられるようにする。
→生徒向け研修会、教員向け研修会を行うとともに、日頃から生徒に対し的確な支援をする。

(3)進路指導・支援について

- ①生徒が自己の「将来イメージ」を明確にするため、「ガイダンス」、「実習」、「企業見学」の機会を増やす。
- ②「担任」だけでなく「進路指導担当」との面談を通じて「進路情報」を提供する。

(4)地域との協働について

- ①「地域貢献活動(清掃)」、「PTAが参加した活動」を実施する。また、子どもに手芸を教える「手芸教室」、「デイサービスボランティア」を定期的に行えないか検討する。
- ②(新入生募集は停止だが)定時制での日々の活動をHPにて広報活動する。

(5)学校管理・学校運営について

- ①職員の「不祥事防止」についての取組みとして、「相互チェック体制」を確立する。
- ②「防災教育」の取組みとして、生徒全員での「防災避難訓練」、少人数で「DIG訓練」を実施。

6 質疑・応答 及び 協議

(各委員からのご意見)

・石田委員(PTA会長)

：「先生の負担が大きいと思われる所以、何らかのフォローをしたい。」

・成川委員(東海大学)

：「ICTの活用について、10年前と違い今は高校でChatGPTやVRなどを活用した指導をしている。進路してくる高校生の学習が充実するよう大学も頑張りたい。」「進路指導を意識して教育課程の見直しを行ったり、1年生からキャリア(職業)を意識させながら指導をしたりしているのが良い。」

・宮林委員(山王中学)

：「様々な生徒、インクルーシブ(特別枠で入学した生徒)、在県外国人、そして定時制とさまざまな生徒にさまざまな支援をしてもらっているのはありがたいことである。」

「山王中学も同様の研究授業を行うため、職員間で情報共有やアイデアを持ち寄れたらいいのではないか。」

・田中委員(同窓会)

：「昔と違い科目の内容を教えるだけでなく、様々な研究・事業を展開している、先生方の負担は大変だと思うが、生徒はありがたいと思う。」

・平田委員(青少年指導員)

：「地元の人と高校生のつながりを今以上に増やしたい。」

・成田委員(自治会)

：「住民の代表として、もっと地元住民と高校生の関わりが増えると良いと思う。」

7 不祥事ゼロプログラムについて

資料「令和6年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等」

「令和7年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラム(全日制)」

「令和7年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラム(定時制)」の確認

第二部 教育活動部会・地域連携部会【16:00～16:30】

1 令和7年3月卒業生「進路状況」について

(別紙資料の説明)

【全日制】

- ・4年制大学進学が増加している。
- ・「指定校推薦」から「総合型選抜」へのシフトが見られる。
- ・専門学校で実践的な学びをしたいという生徒も一定数いる。
- ・「看護」志望者が進学しやすい教育課程の組み立てを心がけている。
- ・インクルーシブ生などを中心に「就職」も微増している。

【定時制】

- ・卒業生は12名、就職準備が1名いる。

2 インクルーシブ教育実践推進校について

- ・本校には知的障害のある生徒を受け入れる入学者選抜の特別枠がある。
(知的障害の程度、手帳保持は不問)
- ・選抜方法は「面接」のみ。本人、保護者、校長が知的障害であることを認める旨の書類を本校へ提出する。
- ・基本的には他の生徒と同様にクラスの中で授業を受け、一人で登下校できる必要がある。
- ・各学年の教室のそばに「リソースルーム(クールダウンする部屋)」を各フロアに用意している。
- ・授業等の資料や配付される通知は「ルビつき」の配慮がある。
- ・特別枠で入学しても大学進学する生徒もいる。
- ・障害者雇用を利用する生徒もいれば、そのことを伏せて進学・就職する生徒もいる。

3 在県外国人等特別募集について

- ・出願条件:外国籍、日本に入国して6年以内、在留カード提出が求められる。
- ・日本語が流暢な方もいる一方で、日本語が全くわからない生徒もいる。
→ 日本語が通じない生徒には、翻訳アプリ等を活用しながら指導することもある。
- ・週2回、「日本語」の授業がある。また、在県外国人の取り出し授業が5教科ある。
- ・三者面談時など日本語が母語でない保護者向けに「通訳」を要請する場合がある。
(県からも予算補助あり)
- ・保護者向け「翻訳資料」を作成する場合もある。
- ・放課後、「日本語補習」を受けている生徒もあり、「N2レベル」を目指して指導している。
- ・進路としては、東海大学(国際学部)、看護学校へ入学した生徒、民間就職した者もいる。

4 部活動実績について

(別紙資料の説明)

【全日制】(主な実績)

- ・ライフル射撃:全国大会 出場(予定)

　　関東大会 男女出場(女子チームピストル第6、7位入賞)

- ・女子バレーボール部:関東大会(ビーチバレー第4位入賞) 出場

- ・男子ソフトボール部:1名が、国民スポーツ大会神奈川代表に選出され 関東大会出場

(予定)

5 校長より

- ・職員負担軽減のためにも「ICT利活用」をいつそう検討したい。
- ・カリキュラム検討を引き続きしていく。
- ・学校を運営する上で、家庭(保護者)支援は不可欠である。
- ・全定交流について、定時制の「ボードゲーム部」が図書室で全日制の生徒と交流している。また、文化祭も全定一緒に開催している。
- ・在県外国人の国籍は「12カ国」にわたっている。いつそうの支援をしたい。
- ・再来年(令和9年)で「開校100周年」に当たる。委員の皆様にもご意見をいただきたい。